

カトリック山形教会報 かすみ

2

2020.2.9



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>

写真提供/カトリック鶴見教会の芳垣宏一さん



教皇フランシスコの姿にならって

主任司祭 千原通明

昨年の教皇フランシスコの来日は、日本のカトリック教会だけでなく、日本中の多くの人々と社会に大きな影響を与えました。教皇様の存在そのものが、力強い宣教のメッセージになりました。教皇様は東京ドームでの説教の中で、次のように述べられました。

「わたしたちが、自分たち自身のいのちを真に気遣い、自然とのかかわりも真に気遣うことは、友愛、正義、他者への誠実と不可分の関係にある」(回勅『ラウダート・シ』70)のです。

この現実を前に、キリスト者の共同体として、わたしたちは、すべてのいのちを守り、あかしするように招かれています。知恵と勇気をもって、無償性と思いやり、寛大さとすなおに耳を傾ける姿勢、それらに特徴づけられるあかしです。それは、実際に目前にあるいのちを、抱擁し、受け入れる態度です。

教皇様ご自身が、来日中、常にこの態度の模範を示してくださいました。そのお姿が、わたしたちにとって力強い導きとなり、大きな励ましともなりました。そして、「すべてのいのちを守るため」に、わたしたち山形教会共同体は何をしてきたのか、また、これから何が必要なのか、しっかり見つめるよい機会となりました。

さて、昨年、山形教会の基本方針として掲げられた

のは次の三つの領域でした。

1. 企業研修・実習などで増加する滞日外国人、すでに住んでいる多国籍の方を大切にすること
2. 病気や高齢などの理由で教会に来られない方々を大切にすること
3. 子どもの信仰養成はもちろんのこと、大人の信仰養成も大切にすること

最近とくに増えてきたベトナム人の方々も、ミサに参加するだけでなく典礼や教会行事にも少しずつ関わってくださるようになって、共同体の大きな存在になってきました。また、病気や高齢の方々の訪問は、多くの方が積極的に行ってくださっています。大人の信仰養成については、2年間続いた祈りの研修会が終了し、今後も続けて深めていきたいと考えています。この他にも、東日本大震災のことを忘れないための祈りや活動、アルコール依存症者の自助グループであるAAや薬物依存症者のダルク(DARC)の支援も大切にしています。

山形教会の共同体が、イエス様の愛を体現された教皇様の模範にならないながら、キリストの愛に根ざし、愛のうちに成長していくことができますように、共に祈ってまいりましょう。

救い主イエス様のご誕生

アシジのフランシスコ 三井 春樹

毎年12月24日、この日は教会にとって最も大切な日。それはイエス様のご誕生である。山形教会でもこの日、ご誕生を祝うミサが行われた。

夕方18時30分、皆で「しずけき」を歌いながら幼子イエス様を抱えられた千原神父様を先頭に聖体奉仕者、侍者が入堂し、ミサが始まる。平日の夕方と言うこともあり来られなかった人もいたが、多くの人が集まった。千原神父様がイエス様のご誕生がどんなに素晴らしいことなのかを話され、キリスト降誕のよろこびを新たにされた。

ミサの後はヨハネ館でクリスマスパーティが行われた。今年も持寄りのパーティとなり、赤飯、ケーキ、



オードブル等たくさんのご馳走が並んだ。皆で美味しく頂きながら話をしたり、千原神父様と川田元子さん、大宮聖子さん、柴田博さんのギターとウクレレ演奏で「諸人こぞりて」などクリスマスソングを皆で歌った。これからも幼子イエス様を大切にしながら、来年も平和に過ごして行きたい。



『祈り』

－カトリック教会に入るにあたって－

大場 望

わが愛するアシジの聖フランシスコよ。わが師と呼ばせてください。

しかし、あなたの背中は大きすぎます。わたしは望みます。正面からあなたを仰ぎ、そして、熱く抱擁できる日がおとずれることを。それまでわたしはこの地において、力を尽くし、心を尽くして、精神的にキリスト者として、少しでもあなたに近づけさせていただけるように。少しでもあなたの足跡を踏むことができるように。待っていてください。

全能の神よ、1つだけこのわたくしにお与え願います。わたしをあなたの人形とならせてください。この世の仲間たち、なかでも苦しみ、悲しみ、孤独のうちにもがいている兄弟姉妹のために使っていただきたいのです。

そして、この人形に命を吹き込んでください。あなたの聖霊という名の命を。あとは何もありません。なぜなら、それ以上に価値あるものを見出だせないからです。アーメン



クリスマス

クリスマス日中ミサは、25日10時から、女子高校生の皆さんやベトナムから来られた方のグループなど、全ての席が満員となる中で行われました。(約80名)

ミサ後、ヨハネ館で祝賀会が行われましたが、皆様からの贈り物、たくさんのご馳走が並んだ五つの食卓は前夜に続き満員。千原神父様の挨拶・音頭により、いま教えてもらった即席ベトナム語を全員の発声で「乾杯」。

まず皆さん、いろいろなご馳走に舌つづみしながらひとときを楽しみます。その中で、ミサ閉祭の時に神父様のギターで歌われた「きかせてください」をも



日中ミサ・祝賀会

う一度聞きたいと長井の信者さんからリクエストがあり、全員での合唱から楽しい歌のお祝会が始まりました。ベトナムの方三人によるベトナムの歌の合唱、また男性のベトナム語の聖歌独唱も素晴しかったです。最後に恒例、ジジさんお得意の「ラ・バンバ」の陽気なリズムに信者さんも合わせて手拍子、そして踊り出す大フィナーレとなりました。ベトナムからこられた皆さん、これからもよろしく。ジジさん!有難うございました。皆さんで大いに盛り上がった楽しい時間となりました。

(広報部 柴田)

教皇ミサ・東京カテドラル巡礼



教皇フランシスコが11月23日から26日まで、日本を司牧訪問しました。

教皇様が司式される東京ドームでのミサに、山形教会からは神父様と信者25名が参加しました。(他数名の方が個別に参加されました)

ミサは、25日午後3時30分、教皇様による「いのちへの祝福」で始まりました。約5万人が参列した会場に教皇様がパпамォービレ(教皇専用車)で登場すると、「ロックスター」という異名を納得させるほどの大歓声がおこり、会場のあちこちから「パパ(教皇)様～」という呼び声が飛び交いました。

2時間におよぶミサの中で教皇様は「あなたは神様から祝福された大切な存在」だというメッセージを送り続けました。教皇様が日本で発信した、戦争に

よる原爆被害、原発事故による被災、若い人たちの社会的孤立などへのさまざまなメッセージは、そのまま私たちへの宿題として残されました。

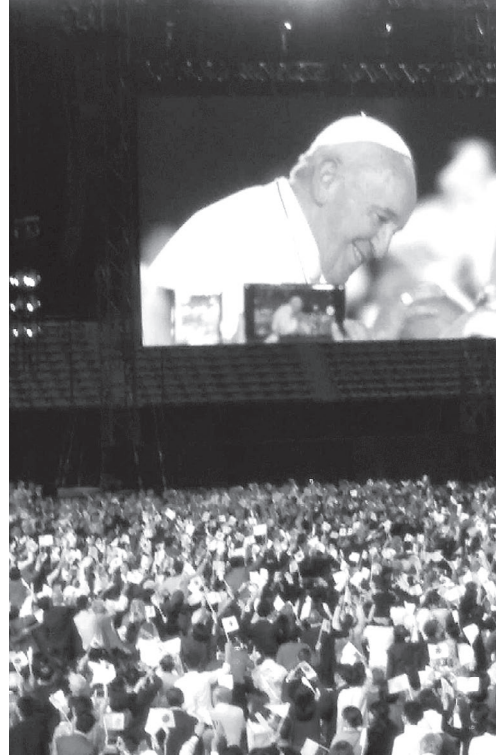
翌26日は文京区東京カテドラル教会の小聖堂で、千原神父様の司式でミサに与ることができました。東京カテドラル聖マリア大聖堂内の、ピエタ像(PIETA「悲哀」)を目の前にして、戦争、病気、事故、事件などで失った自らの子供たちの死を悲しむ、世界中の“母”の姿が重なり、ルルドの MARIA 様の前では、心のなかに“カッチーニ”の アヴェマリアの歌が流れました。

その日の午後5時に、全員無事に山形に到着しました。

神に感謝

(広報部 関根 光一)

教皇フランシスコ様による東京ドームのミサにあずかって



2019.December.7 大宮 聖子

2019年11月25日朝6時半出発!

山形教会ツアーバスは高速道路を一路会場の東京ドームへ。期待に胸を膨らませながら。

会場に着くと、入場券、本人確認のための身分証明書の提示、バッグの中身のチェック、金属探知機による身体チェックもありました。東京ドームには「国際キルト展」等で何度か訪れてはいましたがまるで違う雰囲気にはびっくりしました。ゲートの回転ドアを抜けて会場に入りました。座席は1階席40通路17列328番。早めに着いたので客席はまだまばらでした。ゆっくりと大ビデオスクリーンを見ながら教皇様の到着をお待ちしました。

なぜ「私はここにいるのか」考えていました。不思議な気分でした。なぜ私は洗礼を受けたのか?

二人の娘達が双葉幼稚園に入園、隣が教会で聖書と触れ合う機会があったこと。長女が小児ぜんそくで度々の入院。疲れた心に救いを求めていたのかも知れません。そんな折、なんと!尊敬する成田神父様に洗礼を授けていただきました。その後マクドナ神父様にもお会いできました。夫は、すべての神様を肯定する人で、私のことを理解してくれました。

洗礼を受けたと両親に打ち明けた時の事は昨日のこのように思い出されます。両親の複雑な表情は今でも目に焼き付いています。教会に通うようになって心が安定してきたことは分かったらしく何も言わずに見守っていてくれました。キリスト教の家でもないのに、父が「聖子」と名付けた理由を聞く機会もなく父は亡くなりました。教皇様が日本に来られる目的の一つが唯一の核被爆国として「核兵器のない世界」の実現に向けメッセージを発信されることと聞いております。広島と長崎に投下された原子爆弾による破壊が二度と繰り返されないように。「焼き場に立つ少年」の写真を見て日本に行きたいと思われたと聞きます。また東日本大震災の被災者とも面会

されたそうです。「すべてのいのちを守るため」教皇フランシスコ様来日のテーマです。「Protect All Life」の曲に乗せて教皇様がオープンカーで拍手と歓声(パパさま〜!)とバチカン旗の振られる中、入場されマリア様の像が置いてある祭壇にお立ちになりミサが始まりました。始まる直前には、客席は満席になり会場内だけで5万人がミサに参加されたそうです。(会場外にも?万人!)私は5万人の1人で、全世界13億人のカトリック信者の頂点に立つ方、「教皇様」のミサにあずかっている!この不思議さ、この幸せ感。僭越ながら思いました。私は神様に選ばれここにいて「聖子」という名はこのためにあったのではないかと思います。

わたしたちの地球のための祈りのなかの「この地球上で見捨てられ忘れ去られた人々を救い出すためにわたしたちを助けてください。世界を貪るのではなく守るために、汚染や破壊ではなく、美の種を蒔くためにわたしたちのいのちをいやしてください」弱い立場の人のために何ができるか一人一人考えてくださいという力強いメッセージだと思います。菊地司教様はミサの中で「教皇様!日本に来て下さって本当にありがとうございます」とおっしゃいました。

わたしたちも同じ言葉をお捧げしたいと思いません。教皇様は強行スケジュールの中、大変お疲れのご様子にも見えました。お体をご自愛くださいと心からお祈り申し上げます。

神に感謝。主の平和。アーメン。

教皇フランシスコ来日「教皇ミサ」バスツアーに参加して

マリア ローザ 柴田 利律子

◎一路 東京ドームへ

11月25日月曜日、朝日観光バスで出発、山形市は、とても冷たい朝でしたが、バスの中はこれからおこることへの期待と喜びであふれていました。そして、途中のサービスエリアで早めの昼食をすませ東京ドームへとむかいました。バスが、池袋へ入るとすぐに、道路の左側に、パトカー数台と機動隊の車が並んでいるのが目に入り、本当に、教皇様におあいできるのだと、胸が高鳴りました。高層ビルの光景が続き会場へと進んでいき、水道橋駅に近付くと、もっと物ものしい警備となり、警察官と私服警官が、連絡をとりながら動かれている様子が見えました。東京ドームがビルの間に見え、そして、東京ドームのわきに、バスは停車しました。東京ドームの外見は見たことはあったのですが、入るのは初めてでした。

◎いよいよ東京ドーム

私は車イスを利用される方の担当になったので、バスを降りたところからは、みんなとは別ルートで入ることになりました。観光スタッフさんが1人ついてくださりエレベーターへと進みました。私が思っていたより路上の状態が悪く、車イスにとってよい環境ではありませんでしたが、とりあえずエレベーターにのり2Fに上がりました。そして、そこで右手に、教皇様来日記念品を売るテントが見え、多くの人々が長い列をなして買ひもとめていました。それを横目でみながら案内して下さるスタッフのあとを必死でついていきました。左に右にと進むと、山形教会の人々が待つ入口へと着きました。車イスは入口そばで預かってもらうことになり、介助しながら入口へと進み、荷物検査と、身分証明書と入場チケットのチェックがありました。私は運転免許証を出しその裏に、日本看護協会会員証が入っていました。会員証を見るなりチェックして下さったスタッフがニコリとされ入場できました。これまで、この会員証が役にたったことはなく、このような場で役に立つとは思ってもみませんでした。

入場し、入口を入ると、ミサ司式書をもらい手旗もいただきました。千原神父様が、私の反対にお立ちになりその方を、両方で介助しながら席までいきました。東京ドームの中は、とても広く、よくTVで、広さをあらかず時に、東京ドーム何個分という表現がありますが、この広さをいうのだなあと、実感いたしました。そして、自分の席をさがし席につきホッとしました。目の前には、圧倒するほどのアリーナの広さに整然とならべられた沢山のイスと、多くの人々がみえました。そして、そのまわりをかこむように黄色のジャン

パーをきたスタッフがいました。祭壇の上では、司式される時の立ち位置や座る位置を、確認している様子がみえました。そして、会場にオフィシャルテーマソングが流れテーマソングの歌の練習が始まり、ますます多くのあつまった人々が会場を埋めつくしていきました。ミサ開始時間が迫り、司教団の入場が始まり、会場全体が手旗をふりながら歓声がおきました。

◎教皇様入場

その後、すぐに教皇様がおいでになられるのかと思いましたが、すこし間をおいて入ってこられました。それはとても大きな歓声が、会場いっぱいひろがり、手旗はうつくしいほどにふられるなか、パパモービル(教皇専用車)にのられ、やさしい微笑みをうかべて教皇様は、人々のなかを進まれました。

そして「パパ様、パパ様。」と、声があがり小さな子供たちの顔や頭にやさしく祝福されて進まれるお姿に、あちらこちらから「すてきね。」と声がかきこえてきました。私も、あまりの感動と喜びで胸がいっぱいになりました。アリーナの中央を、進まれたあと、あちらこちらとパパモービルでまわられ、私たちのいる3塁席に近づいてこれ、思い出に一枚は、教皇様のお姿をスマホでとって帰りたいと、スマホをかまえ何枚も撮りました。

◎教皇ミサ

アリーナをまわられたあと、教皇様はパパモービルよりおりられ祭壇へと、お上がりになり、いよいよミサが始まりました。とても大きな歓声は静まり入祭の歌が歌われ教皇様のお言葉を聞き入るように、ますます静かになりました。

ミサは、ラテン語、日本語、英語と多種にわたっておこなわれ、第一朗読は創世記(1・1,26-31a)が、朗読されました。答唱詩編は壇上で、とても澄んだ声でシスターが歌われました。次にアレルヤ唱が歌われ、福音朗読(マタイ6・24-34)が朗読されました。私たち一同は、着席し説教が行われました。しかし私は、日本語以外わかりませんので、必死にモニターにかじりつくように見ていましたが、私が目でおって理解しようと思っているうちに、次々と進みよくわからないうちに、教皇様の説教は終わってしまいました。共同祈願は、英語、ベトナム語、韓国語、タガログ語、スペイン語と、異なった言葉で、行われました。聖体拝領はアリーナの方々だけ先にお授けになり、私たちは、出口のところで、授かることができました。



式の中で、菊地大司教様の声が聞こえてきたとき、なぜかほっとし安心してしまいました。教皇様が、派遣の祝福をされ退堂時に「ごらんよ空の鳥」と、覚えてたの「時のしるし」オフィシャルテーマソングを歌って終わりました。

◎ミサが終わって

山形教会のバスは、早く出るということで、沼沢さんに先導していただきながら出口へとむかい、司教様たちがお立ちになり聖体拝領をしてくださいました。その後、そそくさと出口にむかい車イスをうけとり、のっていただき、私はほっと安心しました。そこから、みなさんと別れ案内スタッフと共に、多くの人々をかきわけながらエレベーターへとむかいました。あまりの人ごみで、案内スタッフとはぐれ、周りを見回し会場スタッフに声をかけて、バス乗り場の待ち合わせ場所へといそぎました。路上の悪い道をいそいでいると、交差点ではげしい笛の音がなりひびき、あわただしい交通規制がはじまり、何ごとかと見ていると「教皇様を乗せた車が通ります。」と声が聞こえ、ものものしい空気が流れました。残念ながら見ることはできませんでしたが、会場案内のスタッフの方が「私たちはお入りになるところを、待ちぶせして、見る事ができました。」と、話しておられました。通行の規制がとかれて、私たちはいそいでバス乗り場にむかいました。少し待っていると、山形教会の人々が歩いてこられ、おち合うことができ、バスに乗りこみました。バスの中では、みんな喜びにみちあふれ、それぞれに話をしたり喜びを静かに味合われたり、東京タワーを見たりしながら、ホテルへとむかいました。ホテルは、アジュール竹芝で、エレベーターで上がり、フロント前に集まって説明をうけ、部屋のカギをもらい、8Fへといき荷物をおいて、みんなで夕食をとりました。朝、窓から外を見ると、ビルがたちはだかっており、東京にいるんだと、しみじみ感じ、昨日のことは、夢ではなく本当にあったことだと、じわじわと実感がまたわき上がりうれしくなりました。朝食をとるために、身じたくをととのえ、みんなで朝食をとりました。

◎東京カテドラル教会

朝食後、部屋へもどり荷物をまとめ、フロントを後にし、バスにのり2日目のスケジュールが始まりまし

た。東京カテドラルにバスは進みました。皇居のわきを通り、目白通りをぬけ、椿山荘を横目にみながら、東京カテドラルへと入って行きました。私は、約30年前に、椿山荘にて専門学校の卒業祝いパーティーがあったのですが、その時、こんなに近くに教会があったとは、気づきもしませんでした。

さて案内されながら、カテドラルの中に入りました。大聖堂のなかには、イスが一つもありませんでした。教皇様が、25日午前中に、カテドラルに足をはこばれ、青年や人々にお会いになったため、その時すべてのイスを移動したとのお話でした。入口を入れて左の階段を上がると、右下に洗礼室がありました。そこには、とても立派な洗礼盤がおかれていました。その左には、ピエタ像があり、サン・ピエトロ大聖堂にあるミケランジェロ作の、原寸大のレプリカであるとありました。先へ進むと、ガラスケースに入った聖ファウステイナの聖遺物と、聖フランシスコ・ザビエルの胸像がありました。大聖堂のなかに入り、十字架の天井をみあげ、光と共にある大きな十字架をみました。「後を見てみなさい。」と声をかけられ、ふりむくと、とても大きなパイプオルガンがありました。右にすすむようにいわれ、地下聖堂へと案内され、千原神父様により、ミサをおこなっていただきました。祭壇の右にとっても大きな「いつくしみのイエス様」のご絵がありました。写真を撮りたかったのですが、遠慮いたしました。ミサを授かったあと、カテドラルを出て、むかいのルルドを眺めながら売店へといそぎました。売店には多くの人がつめかけていて、とても混んでいました。私は後ろの方にならんでしまい、45分もバスをおくらせることとなりご迷惑をおかけしてしまいました。

◎帰路

そしてバスにのりこみ、山形へと帰路につきました。この2日間、みな様にはとてもお世話になり、感謝でいっぱいです。ありがとうございます。千原神父様、とりまとめていただきました沼沢敬志様には、ご多忙の中にもかかわらず、お力をつくして下さいましたことに感謝申し上げます。山形教会の皆様と参加でき、とても楽しくよい思い出となりました。本当に、ありがとうございます。

ブライアン新司祭 叙階おめでとうございます

ヨハネ マリア ビアンネ 西坂 勝雄

去る11月4日、水戸市水戸京成ホテルに於いてブライアン助祭神父の新司祭叙階式に参加、出席して来ました。

当日は、朝から秋晴れのとても温かい休日で、500名を超える多くの信者さん達が管区、教区に関わらず広い会場一杯に参列されていました。

叙階ミサでは、司祭団48名を率いるさいたま教区の山野内司教様が式を執り行い叙階の儀の中で、司教様の問いかけにブライアン神父様は、司祭とされる決意をしっかりと述べられていました。

茨城と山形での小教区司牧経験を積み重ねる長い修練を終えられた事で、大きな自信となられ、福音を伝える役目を約束されました。

大勢の聖歌隊が合唱する賛歌に包まれて式は終焉を迎え、気がつくときすでに予定した時間を越えていて、同会場で行われる祝賀会の準備のために用意された控え室に移動する事になりました。

そこでも、久しぶりに会った人たちの明るい会話や、互いに写真を撮り合っただけの喜びの時間を過ごされ

ていました。

続く祝賀会では、本間管区長よりご挨拶があり、その中で“今日からは神父様と呼ばれるようになる”しかし、決して偉くなった事ではなくこれは、人と主イエス・キリストとの架け橋になる事であり、“福音を伝える人”であるとお言葉を贈られていました。

次に、来賓の紹介があり遠路ローマから聖心会総長アルベルト神父とブライアン神父の兄弟姉妹が来日されている事が披露されました。

ワルヨ神父のお祈りと乾杯に続き、飲み物と豪華なお料理が振る舞われました祝宴では、賛歌やパフォーマンス、千原神父と仲間達の演奏と続き、山形・米沢・新庄合同チームでの花笠音頭が披露され会場からも多くの人が飛び入り参加して雰囲気最高潮に達し踊りを盛り上げていました。

これからブライアン神父の司祭としての日々が続きます。ご活躍をお祈りします。

おめでとうございます。



ブライアン新司祭 叙階おめでとう

2019年11月4日(月)水戸駅の近く、水戸京成ホテルで11時から[さいたま教区長]山野内司教様の司式により、イエズス・マリアの聖心会の神父様、埼玉教区をはじめ多くの関係神父様出席のもと、新司祭誕生を迎えよるこびあふれる会場の中で、厳粛に式が進められました。ブライアンさんらしい雰囲気を感じます。

記憶が定かではありませんが、最初に山形教会にこられたときの千原神父様の紹介は、「フィリピンの神学校を卒業し、初めて日本で実地研修と日本語の勉強をします」とのことでした。その時はいきなり山形で大丈夫なのかな!といらぬ心配をしたことを思い出しました。当初は信者さんとの会話もままならず

何を言っているのか分からない状態でしたが何と云っても真面目です。見えないところで一生懸命に勉強したと思います。その年の被昇天祝賀会には、千原神父様と一緒にゆかた姿で現れました。霞城公園のさくらに感動し冬の雪にしたしみ、いつの間にか山形“つう”になっていました。そういえば日曜以外はずっと自転車でも何処かに出かけてました。この頃より言葉もはっきりしてきて、話しする毎に人間ブライアンさんが見えてきました。好青年です。まず真面目、礼儀正しい、目標まっしぐら、その割に冷静、多分自分を曲げないところもあるのでは?(いいことと思います)

昨年当初、助祭叙階のため山形を離れられまし

たが助祭になられてまた山形に来てくれました。山形教会、新庄教会で仕事をされましたが、嬉しいことがありました。山形教会では千原神父様の仕事の都合で集会祭儀が何回かあります。その中でブライアン助祭の説教がありました。内容は省きますが、水の入ったコップを道具として片手に持ち説教をはじめました。ビックリです。でも私はこういう人が好きです。自分の話したいことを出来るだけ分かってもらいたい。必死に話している気持ちが伝わります。私は説教を別にして思わず写真を撮っていました。これがその時の写真です。まっしぐらですが考えて落ち着いて行動しています。

叙階式、祝賀会でも何回もお話がありました、



これからです。山形でのブライアンさんの姿を無くさないで欲しいと思います。山形もお忘れ無く。おめでとございました。(柴田 博)

山形小教区評議会が第2期に入ります

カトリック山形小教区評議会

新しい山形小教区規約により2018年3月4日信者総会時より、千原神父様を中心として、役員・各活動部長をメンバーとしてカトリック山形教会評議会が発足、今年2月で第1期が終わろうとしています。この間を簡単に振り返って見ますと、最初に、新たな部会活動の円滑な遂行を目指して全ての信者さんにいずれかの部会への所属をお願いしました。諸事情で活動自体は出来ない方々も山形教会の一員として、仲間として常に連帯性を持ちたいとの考えからです。おかげさまでミサへの参加回数は別として年間のうち教会へこられている方(推定)、約130名のうち90名の方に所属して頂きました。また各部活動についても皆様には年間を通した定例の仕事・行事等にお力を頂き有難うございました。今年度から2期目に入りますが、社会に合せ山形教会も全体的な信者さんの高齢化が進んでいます。そしてこれまで経験することがなかった多くの多国籍の方々のミサへの参加があります。

2018年3月の小教区評議会制度の始まりに当り、小林代表役員よりの「高齢者。それがどうした」の挨拶に合わせるかのように、山形教会ミサ出席人口のうち、大半を占める50才以上の皆さんが、教会活動を支えられて来ました。これからも、皆で話し合いながら教会活動を進められていければと思います。特にこれから皆で考え進めて行かなければならない課題に、2019年の始まりに千原神父さまより頂きました山形教会の基本方針、A、世代、国籍、文化の違いを乗り越え、喜びと思いやりにあふれた「私たちの教会」を育てる。ことがあります。時間が必要と思いますが、お互いが無理のない交際の中で共有できる私たちの教会を目指したいと思います。

今年、2月で役員、部長の任期が終わります。部員の方についても所属部の変更(希望による)。新部員の入部を募ることに評議会で決定しました。

手続きは各部の中で受け付け・部長間で調整し、2月23日の総会時には新体制を発表したいと思います。

(報告 柴田)

ようこそ、山形教会へ



●待降節黙想会で土崎教会から来られたビジュ神父



●マレーシアからの巡礼団の同行司祭のお二人



●千原神父手術後のミサを司式されたルスニ神父(友部教会)